安全運転ほっとNEWS
平成20年4月号

今月のデータ

4月10日

交通安全に対する国民の意識を高める目的で新設された『交通事故死ゼロを目指す日』です。ちなみに、平成元年から19年までに記録された最少日は4人です。

TOKIO MARINE NICHIDO
MILLEA GROUP

子どもの行動特性をよく知ろう

子どもの交通事故の傾向

子ども（15歳以下）が巻き込まれる交通事故には、以下のような特徴が見られます。

道路形状

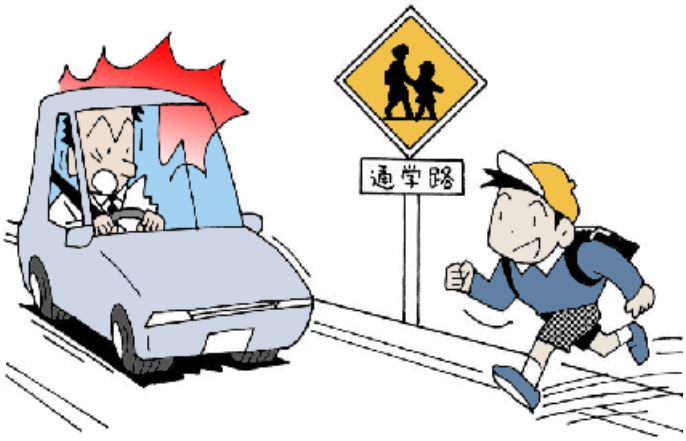
他の年齢と比較すると、「信号のない交差点」で事故の被害に遭う割合が高い。

時間帯・曜日

登下校時（7～9時／15～18時）の事故が多い。また、曜日別では、休日（週末・祝日）に多く、幼児の被害者の約40%は休日に事故に遭遇している。

発生場所

幼稚園や学校付近（通学路）での事故が目立ち、幼児の約半数、小学校低学年の約3割は自宅から100m以内の場所で事故に遭っている。



子どもとの危険な遭遇

車が接近している場合でも、親や友達等を発見すると、後を追いかけようとして衝動的に道路に飛び出してくることがあります。子どもは判断力や危険を予測する能力が未熟で、一つのことに注意が偏る特性があることを理解しておきましょう。

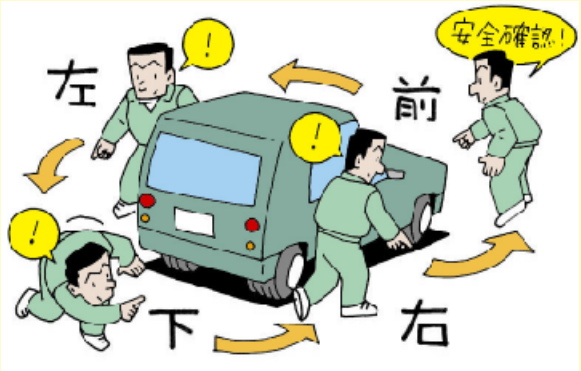
身体が小さいので、死角に隠れて見落としやすいことも危険な特性の一つです。また、悪ふざけをして、わざと見えづらい場所に隠れることもあります。安全確認を怠り、いきなり車を発進（後退）させることは禁物です。

子どもを交通事故から守る運転を心がけよう

飛出しを予測する

子どもを発見したときは、その子の動きだけではなく、視線の先にも注意を払いましょう。誰かに声をかけたり、手を振るしぐさをしているようなときは、飛出しを予測しておきましょう。

死角に潜む危険を確認する



自宅（付近）の駐車場で、親が運転する車にひかれて死傷する事故が発生しています。このような悲劇を防止するために、発進・後退時には車の前後左右の安全確認を徹底しましょう。

また、見通しの悪い交差点や駐車車両の陰からの飛出しにも注意を払いましょう。

接近するときは慎重に

こちらを向いているから、車の接近に気づいているだろうと判断するのは危険です。子どもは大人より視野が狭く、自分に近づく対象にもすぐに気づかない場合があるので、いつでも止まることができる速度に落として走行しましょう。

運転者が進路を譲る

道路を横断しようとする子どもを発見したとき、子どもが車の通過を待ってくれるだろうと期待してはいけません。この場合、徐行ではなく、必ず一時停止して、進路を譲ってあげましょう。

ご用命・ご相談は…
「やすらぎ」の設計が私たちの使命です。
保険システム株式会社
INSURANCE SYSTEM CO.,LTD
〒950−0087
新潟市中央区東大通２−４−１　新潟パナソニックビル６Ｆ
ＴＥＬ 025-243-7374　ＦＡＸ 025-243-0921
Ｅ−ＭＡＩＬ　yasuragi@hokensystem.co.jp
ＵＲＬ　http://www.hokensystem.co.jp

東京海上日動火災保険株式会社
企業営業開発部
〒100-8050　東京都千代田区丸の内1-2-1
TEL 03-5288-6589　FAX 03-5288-6590
URL http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/
担当営業課